

平成20年度 第1回県立病院を良くする会

議 事 次 第

日 時	平成20年8月29日(金) 午前10時から正午まで
場 所	県庁10階 大会議室

開会

1 会長挨拶

2 議題

(1)第二次経営健全化計画の策定について

(2)平成20年度第一四半期の患者動向及び第二次経営健全化計画における担うべき医療機能について

3 質疑及び意見交換

閉会

委員名簿

会長	学識経験者	藤岡 幹恭	徳島文理大学名誉教授
副会長	学識経験者	谷田 一久	広島国際大学医療福祉学部准教授
	医療関係者	香川 征	徳島大学病院長
	医療関係者	水口 艶子	社団法人徳島県看護協会会長
	消費生活関係者	片山 悦子	特定非営利活動法人徳島県消費者協会会長
	公募委員	一宮 亮一	
	公募委員	里村 典子	

病院局出席者

病院事業管理者	塩谷 泰一
病院局長	阿部 謙一郎
病院局参事	黒川 修平
●中央病院	
院長	永井 雅巳
事務局長	森谷 広文
医療技術局長	河田 明男
看護局次長	武市 佳余子
薬剤局薬剤科長	江島 久隆
事務局主査兼係長（企画経理担当）	松本 明
事務局主事	影山 由美子
●三好病院	
院長	余喜多 史郎
事務局長	妹尾 英明
医療技術局主幹兼放射線技術科長	後藤田 省吾
医療技術局薬剤科主査兼副科長	亀井 潔
看護局看護師長	内田 桂子
看護局副看護師長	大塚 孝子
事務局係長（企画経理担当）	前田 隆司
●海部病院	
院長	川端 義正
事務局長	宮原 英夫
看護局主査	中張 成美
事務局係長（総務担当）	尾山 徹
医療局栄養管理科技師（調理）	天野 悦子
医療技術局薬剤科技師	村田 武史
●総務課	
課長補佐	市原 俊明
課長補佐（政策調整担当）	阿宮 広明
係長（業務担当）	林 博信
●経営企画課	
課長	新田 多門
課長補佐	古川 武信
課長補佐（予算経理担当）	来島 努
主査兼係長（企画管理担当）	近住 多恵
係長（予算経理担当）	大井 文恵
係長（経営戦略担当）	頭師 正彦
主事	立石 雅大
●施設整備推進室	
室長	三好 正和
室長補佐	羽田 和弘

知事部局出席者

●医療健康政策局医療政策課	
課長	榊 茂

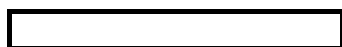
平成20年度 第1回県立病院を良くする会 座席表

日時:平成20年8月29日(金)

場所:県庁10階 大会議室

傍聴席

記者席



藤岡
会長

谷田
副会長

水口
委員

一宮
委員

香川
委員

片山
委員

里村
委員



施設整備 推進室 三好室長	経営企画課 古川 課長補佐	医療健康 政策局 医療政策課 榊課長	黒川 参事	阿部 局長	塩谷 管理者	中央病院 永井院長	中央病院 森谷 事務局長	三好病院 余喜多院長	三好病院 妹尾 事務局長	海部病院 川端院長	海部病院 宮原 事務局長
---------------------	---------------------	-----------------------------	----------	----------	-----------	--------------	--------------------	---------------	--------------------	--------------	--------------------



経営企画課 新田課長	経営企画課 頭師係長	施設整備 推進室 羽田室長 補佐	総務課 阿宮 課長補佐	総務課 市原 課長補佐	中央病院 河田 局長	中央病院 武市 看護局 次長	中央病院 江島 薬剤科長	三好病院 後藤田 医療技術 局主幹	三好病院 亀井 薬剤科 副科長	海部病院 中張 看護局 主査	海部病院 尾山 事務局 係長
---------------	---------------	---------------------------	-------------------	-------------------	------------------	-------------------------	--------------------	----------------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------

本局・各病院出席者

本局・各病院出席者

平成 2 0 年 8 月 2 9 日 (金)

第 1 回 県立病院を良くする会 プレゼンテーション資料

第二次経営健全化計画の策定について

～ 計画策定の趣旨、スケジュール等について～

基本方針と健全化計画

徳島県病院事業経営健全化基本方針

- 平成16年3月策定
- H16年度からH25年度(10年間)の経営健全化に向けた方向を明示

徳島県病院事業経営健全化計画

- 平成16年9月策定
- H16年度からH20年度までの中期経営計画
- 「基本方針」に基づき、経営健全化に向けた具体的方策を示す

健全化計画目標

平成17年度からの地方公営企業法全部適用実施により、効率的な病院運営体制を整備する

平成20年度までに、純損益ベースで恒常的な赤字体質からの脱却を目指す

医業収益対人件費比率について、平成20年度に65%以内を達成する

医療機能の向上により、複数の二次保健医療圏を単位とした良質な医療提供体制を整備する

計画目標：4年間の達成状況

平成17年4月より地方公営企業法全部適用を実施

H18年度決算において純利益 3.0億円
H19年度 " 4.2億円

医業収益対人件費比率 H18 60.3%
H19 58.7%

医療連携・がん診療の推進、高度医療の進展等の一方で、常勤医・救急専門医の減少

平成19年度 病院事業会計 収益的収支

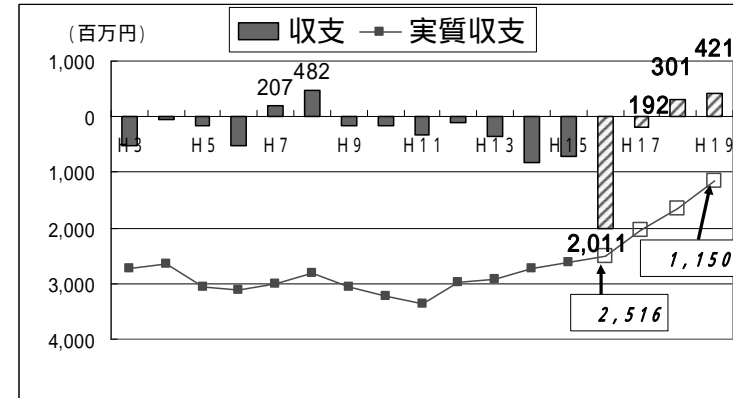
平成19年度収支

中央病院	398,700,087
三好病院	180,860,529
海部病院	38,626,456
本局	120,169,863
計	420,764,297 円

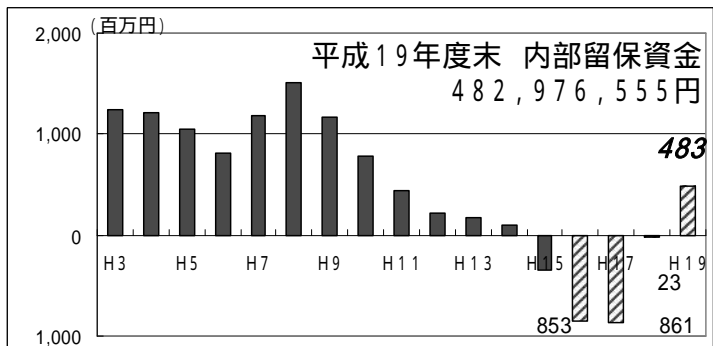
H18から2年連続の黒字化を実現

平成19年度末累積欠損金
9,429,398,484 円

収支改善の推移



内部留保の推移



平成15年度末以降発生していた、不良債務を5年ぶりに解消

計画初年度以降の環境変化

- 全国的な勤務医不足の広がり
- 医療費抑制基調による医療制度改革
- 財政健全化法公布、公立病院改革ガイドライン
- 厳しい県財政状況
- 総合メディカルゾーン及び県立中央病院改築事業の推進



「県民に支えられた病院」として、医療の質・透明性・効率性をより一層高めるために、今後5年間の取り組み指針となる計画を策定する

第二次経営健全化計画策定の全体像

「担うべき医療機能」の再確認	現状を踏まえながら、平成25年度の「あるべき病院の姿」を検討
----------------	--------------------------------



「県立病院を良くする会」で説明し、外部有識者からの助言を得る



具体的計画策定	「医療の質・透明性・効率性」の向上の各視点で、具体的取り組みを策定
---------	-----------------------------------



「県立病院を良くする会」での説明



パブリックコメント実施

第二次経営健全化計画 策定スケジュール

	検討内容	県立病院を良くする会
4月	担うべき医療機能の再確認	
7月		
10月	具体的取り組みの策定	8月29日開催 ・担うべき医療機能について
21年1月	パブリックコメントを実施	12月初旬開催 ・計画素案について
	計画素案の修正	3月初旬開催 ・計画最終案について
3月	計画の完成	

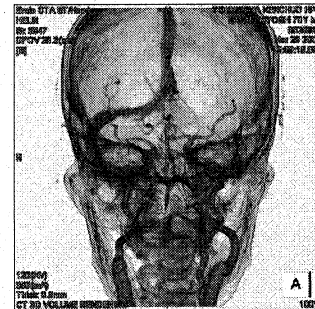
公立病院改革プランとの対応

- 公立病院改革プランは、「経営の効率化」・「再編・ネットワーク化」・「経営形態の見直し」の三視点での策定が求められ、その内容は基本的に、第二次経営健全化計画に包括される
- 「再編・ネットワーク化」部分については、医療政策課・市町村課との連携を図りながら、徳島県地域医療対策協議会等における今後の検討と並行して、内容を詰めていく
- その熟度に応じ、改革プランに反映していく

平成20年度 第1回
医療の確保と健全化を進める会

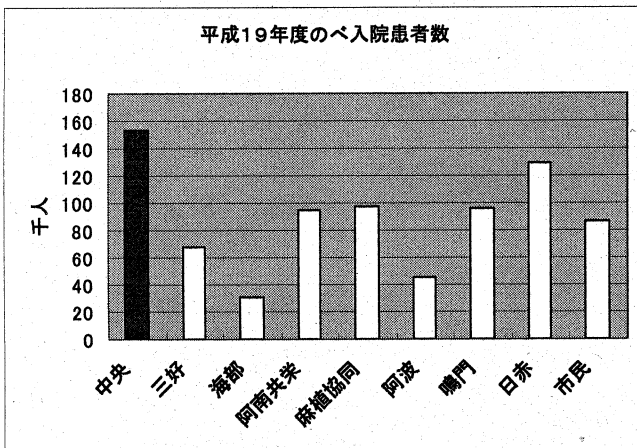


平成20年度第1・四半期の患者動向



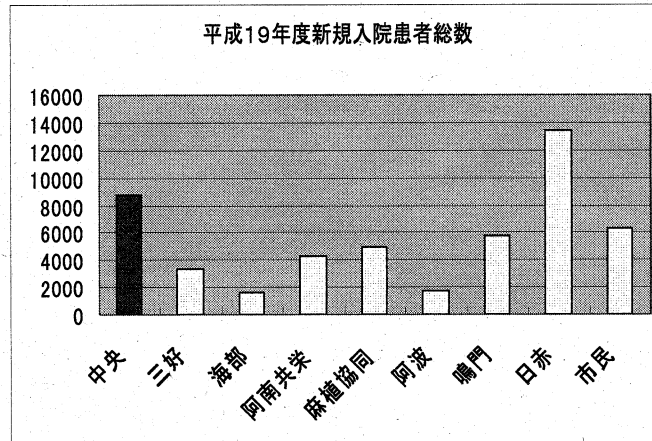
64列CTによる脳血管解析
イメージ図

平成19年度のべ入院患者数



平成20年7月 徳島県公的病院事務長会議資料より

平成19年度新規入院患者総数

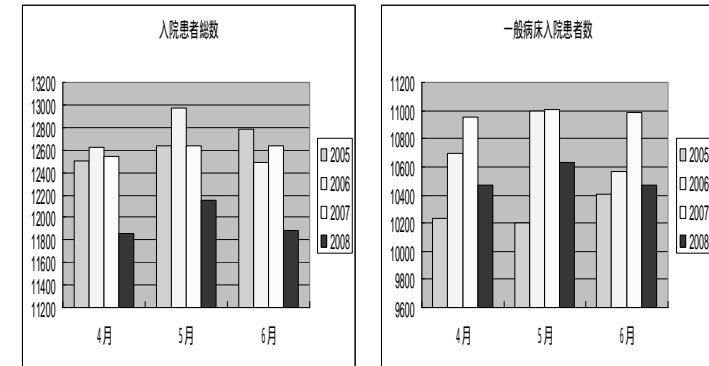


★救急・紹介患者を受け入れ新規入院患者の増加を

平成20年4月の現状

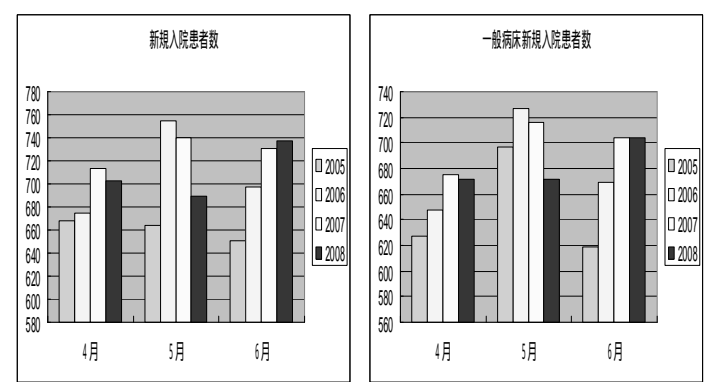
- 救命救急専従医師の3名の退職
- 看護師不足による一部一般病床の入院制限
- 精神科病棟改築による精神病床縮減

平成20年度4～6月入院患者総数



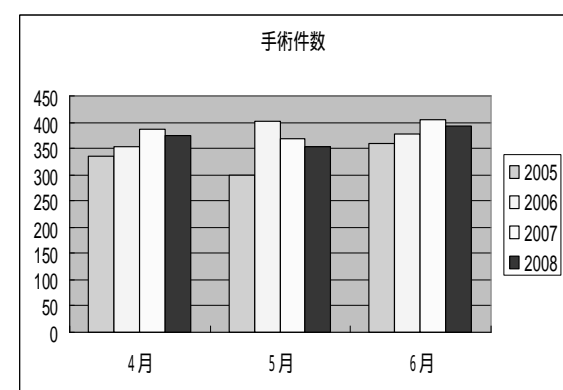
一般病床は、全適元年を越えるも、全体として**対前年比94.5%**

新規入院患者数



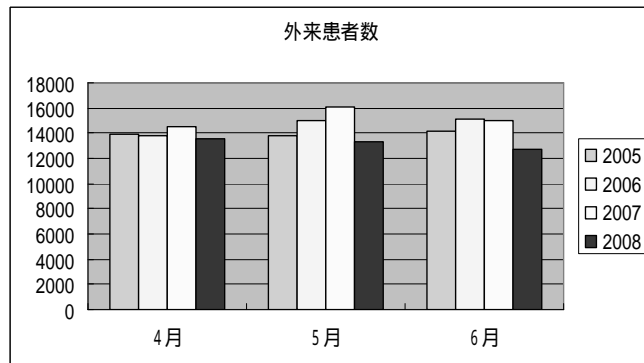
新規入院患者数は**対前年比99%**

手術数



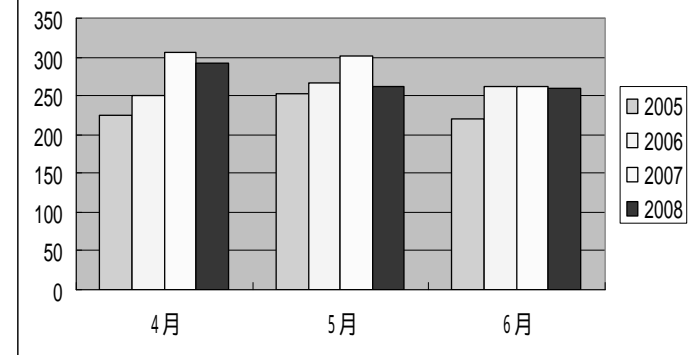
手術数は患者減を反映して、**対前年比97%**

外来患者数



地域完結型医療推進により、外来患者数は対前年比86%に減少

救急搬送件数



救急需要の右肩上がりの増加に供給体制が追いつけていけず、対前年比86%

平成20年度上四半期実績からみた決算見込み

	H20決算見込み	H19決算	対前年比
病院事業収益	9,770	10,517	92.9
医業収益	8,855	9,631	91.9
入院収益	6,497	6,937	93.7
外来収益	1,758	1,859	94.6
病院事業費用	9,506	10,117	94.1
医業費用	9,377	9,974	94.1
給与費	5,343	5,702	93.7
材料費	2,288	2,527	90.5
経費	1,336	1,341	99.6
収支差引	265	400	135

第二次経営健全化計画



世界糖尿病デー
Sep 10, 2008

平成16年度以降、主に果たしてきた機能

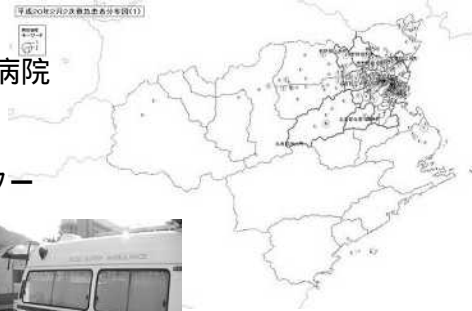
地域医療

地域医療支援病院

救急医療

救命救急センター

小児救急



平成16年度以降、主に果たしてきた機能

地域医療

がん医療

都道府県がん診療連携拠点病院

徳島県がん診療連携協議会

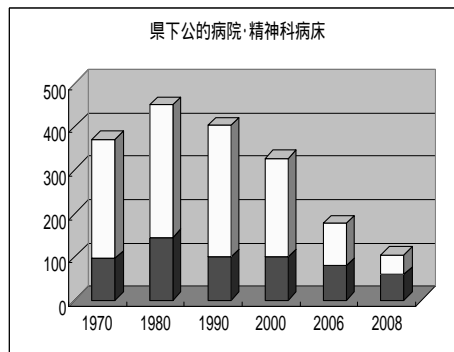


平成16年度以降、主に果たしてきた機能

地域医療

精神医療

急性期精神
合併症患者
触法患者



病院を取り巻く環境の変化

- 医師不足(救急・外科系医師)と専門医志向
- 産休・育休看護師の増加等に伴う看護師不足
- 7:1看護体制の導入による県下急性期病床の縮小
- 二次救急告示病床の縮小
- 患者権利意識の増大

医療資源不足に伴う選択と集中

第二次経営健全化計画において 本院が担うべき機能



2007年2月5日 新型インフルエンザ訓練



平成23年度開院予定

当院の歴史

当病院は明治四十 十一月徳島県衛戍病院として開設せられ昭和十一年十一月日に陸軍病院として改称し専ら陸軍軍人の診療に当たってきた 大東亜戦争の終了後厚生省に移管昭和二十年十二月一日国立徳島病院として発足 大衆の診療と看護婦の養成に従事し一般より讃仰感謝せられたが昭和二十七年八月二十五日法律第三百十一号に則り徳島県に移譲と決定し翌二十八年六月三十日に開院した

昭和二十八年六月三十日
国立徳島病院長 櫻井芳香 撰



新病院開院間もないころ 1974年10月



オルソ化空中写真ダウンロードシステムから



新病院・平成23年度 開院予定 MZ構想

総合メディカルゾーンのイメージ

「県民の安心」
をめざした

- ・救命・救急医療
- ・小児救急医療
- ・災害医療の拠点化

「県民の健康」
をめざした

- ・周産期医療
- ・がん医療
- ・感染症医療
- ・生活習慣病医療の拠点化

「県民医療の発展」
をめざした

- ・医療情報
- ・医療従事者教育の拠点化

「総合メディカルゾーンの効率的な運営」

- ・駐車場の共同利用、エネルギーセンターの設置、連絡通路の設置
- ・高額医療機器の共同利用、薬剤等の共同購入

徳島大学病院・県立病院

当院

- ・救急医療
- ・標準医療
- ・がん医療
- ・精神(急性期・合併症)
- ・臨床研究

大学病院

- ・高度・先進医療
- ・移植・再生医療
- ・がん医療(先進)
- ・精神(思春期・器質)
- ・基礎・萌芽的研究

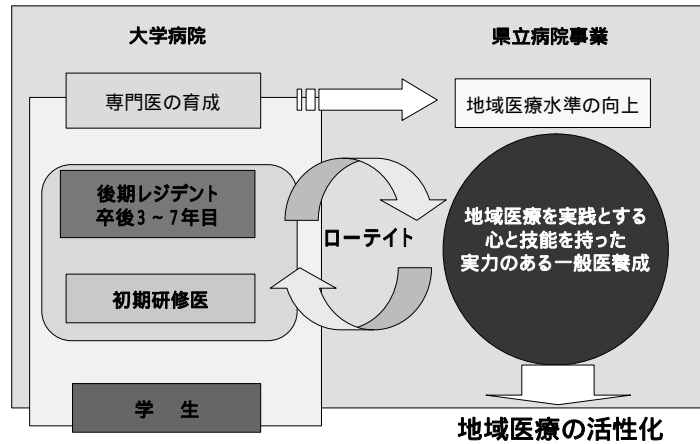
感染・災害医療

僻地医療支援

特に、重要なのは安定で継続的な
医療供給体制を確保出来る
医療人の育成

～ 医療資源の確保 ～

安定し、継続した医療供給体制の確立



次世代へ繋ぐ医療人の育成



足りないのは、医師だけではない

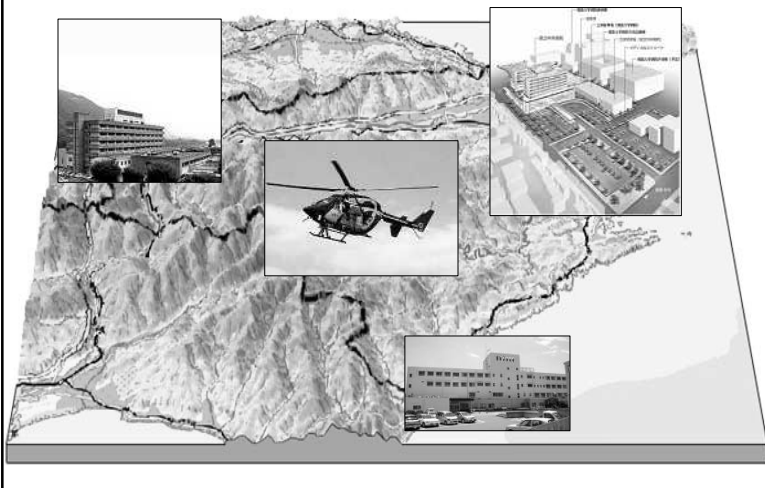


医療現場では、臨床工学技士、社会福祉士など専門性を有する新たな職種が求められている。手厚い医療体制により、診療報酬上の加算も得られ、安心・安全な医療も推進できる。



当院11F病棟より眺めた改築現場

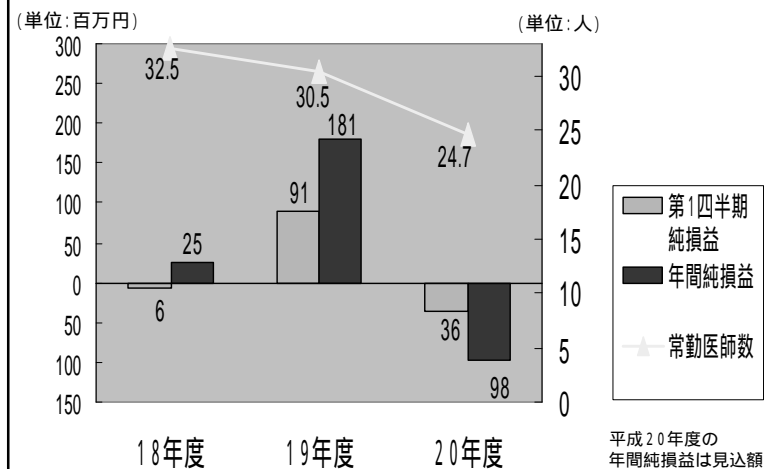
安全・安心な医療提供体制の確立



外来患者動向

	20年度 第1四半期	19年度 第1四半期	前年比較 (-)	前年比 (/) *100
延外来患者 (人)	25,218	30,227	5,009	83.4
1日平均 外来患者(人)	406.7	487.5	80.8	83.4
診療単価(円)	10,410	10,401	9	100.1
収益(百万円)	266	315	49	84.4

常勤医師数・純損益の推移



収支状況

(単位:百万円、%)

	20年度 決算見込 (6月末時点)	19年度 決 算	前年比較 (-)	前年比 (/ *100)
総収益	4,153	4,545	392	91.4
医業収益	3,672	4,119	447	89.1
入院収益	2,352	2,534	182	92.8
外来収益	1,042	1,189	147	87.6
総費用	4,251	4,364	113	97.4
医業費用	4,177	4,261	84	98.0
給与費	2,253	2,264	11	99.5
医業損益	505	142	363	-
純損益	98	181	279	-

第二次経営健全化計画において
担うべき医療機能



徳島県立三好病院

核となる医療機能

急性期医療機能

救急医療機能

がん医療機能

急性期医療機能

- 高齢化が進む診療圏において、急性期病院として、高度な治療を担います。
- かかりつけ医及び回復期を担う医療機関との医療連携の拡充に取り組み、地域医療支援病院の承認を目指します。

地域医療支援病院承認要件

紹介率

要件:60%超
19年度:43.0%

逆紹介率

要件:30%超
19年度:36.5%

救急医療機能

- 救命救急センターとして、24時間365日、緊急性の高い疾病及び複数の診療科領域にわたる疾病等を有する重篤患者を受け入れ、迅速に治療を行います。



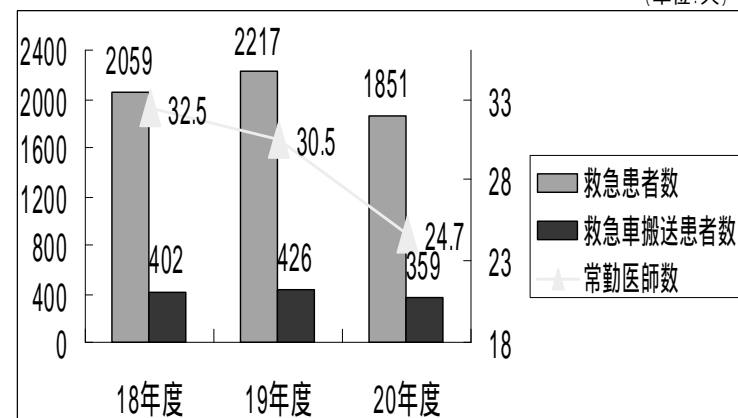
救命救急センター外観



救命救急センター救急処置室

第1四半期 救急患者数の推移

(単位:人)



がん医療機能

- 診療圏においてがんの専門的診療機能を持つ中核病院として、手術及び入院・外来による化学療法を実施します。
- 緩和ケアや相談機能についても一層の充実を図り、がん患者の療養生活の向上に取り組みます。



外来化学療法室(3床)
平成18年8月整備

政策医療

小児・周産期医療

感染症医療

災害医療

へき地医療

小児・周産期医療

- 小児救急輪番病院として、つるぎ町立半田病院と連携し、入院を要する患者を24時間受け入れ、治療を行います。(毎週火、水、木)
- 周産期医療については、妊産婦検診及び正常分娩等を含めたその前後の診療に対応します。

感染症医療

- 診療圏内における結核患者の入院を受け入れるとともに、第二種感染症指定医療機関、さらには新型インフルエンザの対応医療機関として、関係機関と連携を図ります。また、必要な設備等の充実にも取り組みます。



新型インフルエンザ対応訓練
20年3月実施

災害医療

- 災害拠点病院として、災害発生時には、迅速かつ円滑な医療及び被災地支援を実施し、関係機関と連携を図りつつ、地域の防災拠点の役割を果たします。また、そうした事態に備えた訓練の実施や人材育成を行います。



傷病者受入訓練



三好病院DMATチーム

へき地医療

- へき地医療拠点病院として、診療圏内のへき地診療所に対する医師派遣、及び能力向上のための研修等教育機能を担います。
- 医師数が減少する中では、関係機関と協議を進めながら、実行可能な支援を行います。

慢性期医療

- 呼吸器疾患による在宅酸素療法や、重症の脳卒中後遺症により気管切開を施した患者さんへの処置等、地域の医療資源では対応が難しい在宅医療を行います。

呼吸器疾患による在宅酸素療法

重症の脳卒中後遺症により気管切開を施した患者さんへの処置

課 題

外科・循環器内科・消化器内科・脳神経外科・小児科・産婦人科等の医師の確保
診療圏内公立病院及び診療所との連携推進
・再編・ネットワーク化に向けた検討・協議
・地域医療支援病院の承認を受けるための紹介率向上
地域住民の方と相互理解を深め、地域に支えもらえる病院を目指す



目次

1. H20年度第1四半期の患者動向等について
2. 第二次健全化計画における担うべき医療機能について

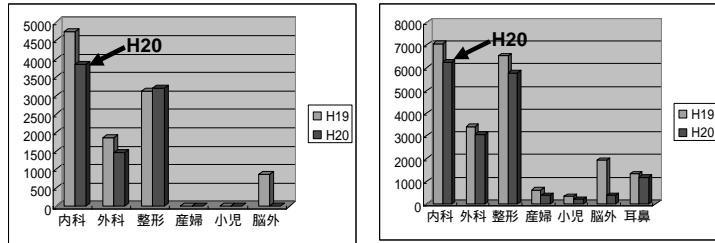
診療実績総括表(第1四半期)

		患者数(人)	1日平均患者数(人)	単価(円/人)	収益(千円)
入院	H20	6,442	70.8	28,304	182,335
	H19	7,928	87.1	27,975	221,788
	対前年	△ 1,486	△ 16.3	329	△ 39,453
		-18.7%		1.2%	-17.8%
外来	H20	12,793	206.3	7,240	92,617
	H19	15,853	255.7	7,069	112,062
	対前年	△ 3,060	△ 49.4	171	△ 19,445
		-19.3%		2.4%	-17.4%
* 入院・外来患者数減少 * 入院・外来単価上昇 * 収益17.6%減		合計		H20	274,952
				H19	333,850
				対前年	△ 58,898
					-17.6%

収支等比較表(6月末時点決算見込)

	19年度(決算)	20年度(決算見込)	対前年(百万円)
総収益	1,733	1,491	△ 242
医業収益	1,492	1,307	△ 185
医業外収益	241	184	△ 57
特別利益	0	0	0
総費用	1,772	1,588	△ 184
医業費用	1,700	1,537	△ 163
(うち給与費)	1,085	998	△ 87
医業外費用	72	51	△ 21
特別損失	0	0	0
収支差	△ 39	△ 97	△ 58

診療科別患者数 (第1四半期)

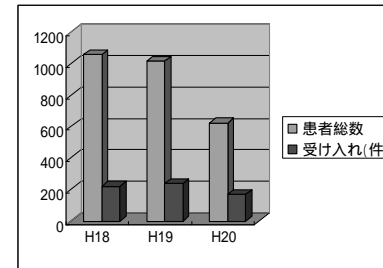


年度	内科	外科	整形	産婦	小児	脳外	耳鼻
H20	3,867	1,453	3,222	0	0	0	
H19	4,744	1,857	3,126	18	6	873	
増減	-18%	-21%	+3%	-100%	-100%	-100%	
年度	内科	外科	整形	産婦	小児	脳外	耳鼻
H20	6,269	3,066	5,787	391	218	373	1,177
H19	7,083	3,421	6,543	625	331	1,936	1,338
増減	-11%	-10%	-12%	-37%	-34%	-80%	-12%

入院

外来

救急患者数の動向 (第1四半期)



	H18	H19	H20
患者総数(人)	1057/4079	1017/4139	626 (61%)
救急車受け入れ(件)	221/846	240/1033	179 (70%)

土曜日
(診療休止中)

	H20
救急車受け入れ(件) / 救急車連絡	11/(27) (41%)

常勤医師数の推移

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度 (8.1現在)
内科	9	7 5	5 4	3	4	3 2
外科	3	3	3	3	3	2
総合診療						0 1
整形外科	2	2 1	2	2	2	3
脳外科	1	1	1	1	1	0
小児科	1	1	1 0	0	0	0
産婦人科	2	2	1	1 0	0	0
計	18	16 13	13 11	10 9	10	8

応援診療体制 (H20・8.1現在)

		月	火	水	木	金	土、日
徳島大 (28コマ/月)	耳鼻咽喉科						
	小児科						
	産婦人科						
	神経内科		(2回/月)				
	脳外科			(2回/月)			
	泌尿器科				(2回/月)		
地域医療研究センター(徳大) (20/月)	消化器(内視鏡)			(2回/月)			
	内科						
県立中央 (15/月)	内科						
	呼吸器外科		(1回/月)				
	泌尿器科				(2回/月)		
	日・当直						(2回/月)
徳島赤十字病院	脳外科			(1回/月)			
開業医	皮膚科						
開業医	産婦人科						
開業医 (全部で1.5/月)	内科、当直	(3回/月)					(3回/月)

取り組みの進捗状況

- * 財団法人日本医療機能評価機構 (Ver.5) の認定病院となる (2008.1)
- * 亜急性病床へ10床を変更 (2008.6)
- * DPC準備病院を継続中

第二次経営健全化計画案

- .急性期医療分野における
一般的標準的医療機能
 - .救急医療機能
 - a.小児周産期医療機能
 - b.感染症医療機能
 - c.在宅医療機能
 - d.災害医療機能
 - e.へき地医療機能
- 核
- 重点的に
取り組む

核となる医療機能

- .急性期医療分野における
一般的標準的医療機能
- .発症直後、急性増悪期には検査・診断・治療を行い、
高度専門的な治療は診療圏外の医療機関と連携
- .救急医療機能について
- .医師確保が出来るまで、毎週土の時間外患者の
受け入れを休止せざるを得ない状況。
- .輪番制が有効に機能するように働きかける

重点的に取り組む医療機能

- a.小児周産期医療機能
 - .助産師による妊婦相談、母子に対するケア
 - .高次の医療機関と連携
- b.感染症医療機能 (新型インフルエンザ)
- c.在宅医療機能
 - .訪問看護、訪問リハビリ、終末期医療
- d.災害医療機能 (防災拠点)
- e.へき地医療機能 (総合医育成の場)

医療再生に向けて

1. 常勤医師を確保する
2. 病床数を見直し、コンパクトな医療体制を作る
3. 医療圏内公立病院・診療所の速やかな再編・ネットワーク化を期待する